

「最古のコーヒー守れ」

コーヒー発祥の地とされるエチオピア。同国のジェルジェルツィ村に世界最古とみられるコーヒー農園がある。そのコーヒーの木を保存し、世界遺産へ登録しようと、福岡市で喫茶店を開く森光宗男さん(五九)がほかの喫茶店経営者や愛好家たちと「ジェルジェルツィワールドヘリテージの会」を結成、署名活動を行っている。

福岡市の喫茶店主ら

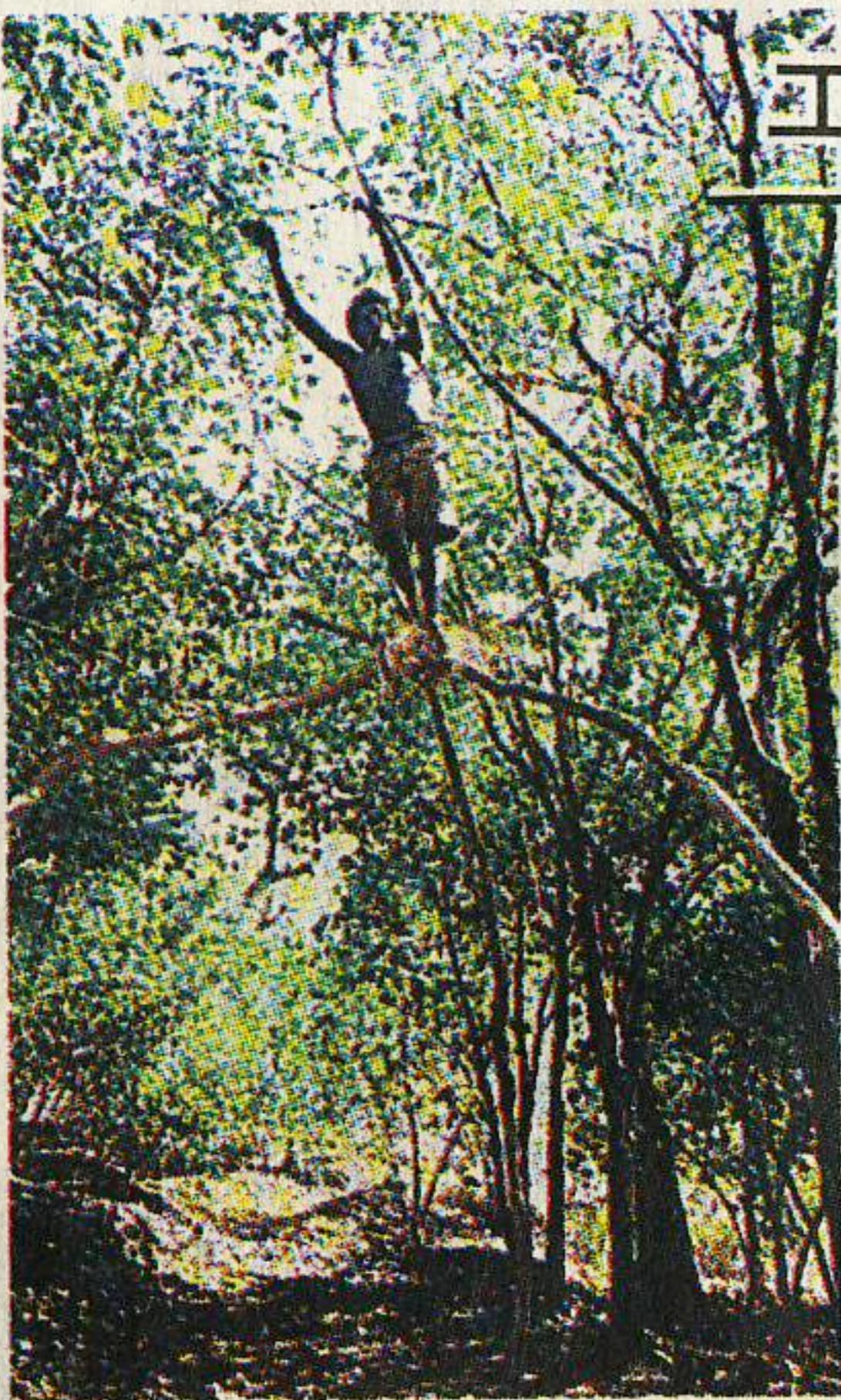
一般的な農園では、収穫量が落ちたコーヒーの木を十年ぐらいで植え替えてしまうため、高くても三メートルにしかならない。同村の木は樹齢が二百年に近く、高さ七メートルを超えるものもある。

世界遺産登録目指し署名活動

森光さんが村を訪れたのは十五年前。住民が大きな脚立に乗って実を採取する光景に、「栽培しているのではなく、自然が育てた木から実をもらっているようだ」と感動した。森光さんは店で、同村産のコーヒーを一杯五百二十五円で味わってもらっているが、しっかりとしたこくがあるという。

エチオピアでは外貨獲得のため、収穫量の多い新品種へとコーヒーの木の植え替えが進められ、村の木に伐採の危機が迫りつつある。「一度伐採されたら取り返しのつかないことになる」と森光さん。保存を訴える署名を集め、エチオピア政府に提出する。

エチオピアの農園 樹齢は200年



エチオピア・ジェルジェルツィ村でコーヒーの木から実を採取する住民

1192年

エチオピア・ジェルジェルツィ村のコーヒー豆を手にする森光宗男さん

